

ベトナムにおける多様な幼児教育法

岡山県ベトナムビジネスサポートデスク (I-GLOCAL Hoang Quynh Chi)

はじめに

ベトナムでは年少者（2013年の0-14歳児の人口比率は23.9%）⁽¹⁾に対する教育が重視されてきており、その教育法は著しく発展している。特に、生活水準の高まりや、一世帯当たりの子どもの数が1、2人に限られること、グローバル化が進み様々な情報源へのアクセスが可能になったことなどにより、幼児教育はめざましい変貌を遂げた。幼児教育は子供の世話や食事を与えるということだけでなく、0～6歳児においては知育や情操教育にまで関心が向けられるようになった。現在、幼児教育法に注目が集まっており、幼児教育に関する分野は今後さらに発展する可能性を秘めている。

当レポートでは、過去と現在の幼児教育の相違について述べるとともに、ベトナムで注目されている幼児教育法についても紹介したい。

1. ベトナムにおける教育及び幼児教育の概要

教育開発はベトナムが一つの国として、経済的・社会的に発展を遂げる上で重要な役割を持つ。1954年以降、ベトナムにおける教育の最大目標は非識字の撲滅であり、CIA factbookの調査（2013年）によれば、2009年時点で15歳以上の人口のうち94%は読み書きができる結果になったようである⁽²⁾。その後は、学生向けの能力開発が中心に行われ、さらに、近年は幼児教育が普及し始め、過去行われた教育開発と同じような段階を経て発展してきている。

Unit: Percent

	1989	1999	2009
Overall	87.3	90.3	93.5
Male	92.7	94.0	95.8
Female	82.7	86.9	91.4
Urban	93.8	94.8	97.0
Rural	85.4	88.7	92.0

15歳以上のベトナムの識字率

「出所：VTOWN NEWS (<http://vtown.vn/en/articles/education-in-vietnam.html>)」

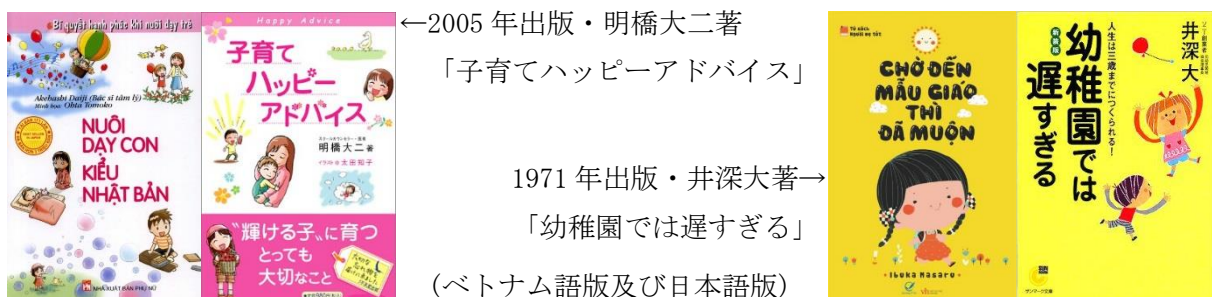
ベトナムにおいて、幼児教育というのは小学校就学前の子供を対象とした総合知能開発を目的とした教育である。その教育は幼稚園、保育園などの公立及び私立機関で行う場合と、親が家庭で行う場合がある。幼児教育は小学校や社会生活に入る前の準備段階として社会性、コミュニケーション、感情コントロールなどを含めた知能開発に重点を置いたものとなっている。過去 20 年、親にとっては子供の健康が一番の関心事であったが、現在は脳の発達も重要視されるようになってきた。

2. 従来の幼児教育

従来型の幼児教育は専ら子供の身体的発達（十分な栄養の摂取、安全衛生など）に関するものであった。ベトナムでは、子供が生まれてからも両親は共働きにより、祖父母あるいは幼稚園に面倒をみてもらうことが多く、子供用のゲームや玩具は、例えば、色鮮やかな手製玩具、ままごと用の小さな道具、紙から簡単に作られる飛行機や船など、簡素な作りのものがほとんどで知育とは無縁であった。これらの遊び道具は幼児の知能開発にはあまり貢献してこなかったと言われている。

3. 現在の幼児教育

現在の幼児教育は、子供の身体的発達だけでなく、脳の発達が非常に重視されているため、祖父母あるいは親が面倒をみたり、幼稚園に連れて行くだけでなく、情操教育や脳の発達を目的としたプログラムに参加する親子が多くなってきている。さらに、知育を目的とした子供用玩具や、様々な国・文化からもたらされた幼児教育に関する書物も普及している。例えば、ユダヤ人、アメリカ人、フランス人、日本人などの幼児教育に関する様々な本が出版されており、選択肢も多い。特に、日本の研究者による幼児教育に関する書籍の人气が高く、例えば、2005 年出版・明橋大二著「子育てハッピーアドバイス」、1971 年出版・井深大著「幼稚園では遅すぎる」といった幼児教育法に関する書籍などである⁽³⁾。また、最近では日本の絵本による教育も普及しており、子供の想像力、言語能力、創造力を発達させるために、毎日子供に絵本の読み聞かせをする親が増えている。



4. 幼児教育が発達した背景

幼児教育が発達した背景として次の3つの要素が考えられる。

- a. 現状：人口増加に伴い、将来受験や就職などの面で競争率が高くなると考えられることから、子供が将来できるだけ多くの可能性に恵まれるよう、親は早期に教育を開始して十分な発育を促すことを望んでいる。
- b. 生活水準の向上：出生制限政策により、一世帯につき子供は1人か2人に限定されたことで経済的に余裕が生じたため、基本的な生活ニーズの一段階上の豊かな生活を求めるようになった。
- c. グローバル化：様々な文化にさらされるようになり、インターネットなど多様な情報源にアクセスすることができるようになった。

5. ケーススタディ：ベトナムにおける七田式教育

株式会社 しちだ・教育研究所は1978年に設立され、七田式教育は日本の幼児教育と右脳教育の第一人者である七田眞氏が生み出した幼児教育である。ベトナムにおいても、七田式教育を提供する教室が2013年にホーチミン、2014年7月にはハノイでオープンした。現在、七田式教育コースは非常に人気があり、多くの親から支持されているため、参加している親子数は著しく増加している。一方で、七田式以外に日本式幼児教育事業を行う会社がないことから価格は高く設定されており、親たちの悩みとなっている。組織化された教育システムを持つ教育法については選べるほど選択肢は多くない。



シチダ教育のセミナー

「出所：Shichida Vietnam Homepage (<http://www.shichida.com.vn/category/su-kien/>)」

6. 今後の課題

幼児教育に関しては多様な選択肢があるが、子育て経験のない若い夫婦にとっては適切な教育法を選択することが難しく、一方では幼児教育に関する組織化された教育システムも多くないため、どのようにすれば親が迷わないかが課題として挙げられる。そのため、本やインターネットによる情報収集以外に、子を持つ親へのサポートサービスや幼児教育に関して相談する場所の設置が必要と考えられる。また、七田式教育のような組織化された教育システムをもつ幼児教育事業への投資がさらに増えることを期待したい。

おわりに

上記のように、ベトナムにおける幼児教育は、栄養バランスの良い食事、健全な身体の発育等から、精神・知能の発達へ関心が変化してきたことを示している。日本からもたらされた教育法の人気は高く、影響力がある一方、海外で開発された様々な形態の教育法も流入しているが、まだ十分に検証されておらず、普及体制も整っていないのが現状である。将来、ベトナムにおける幼児教育はさらに発展するとみられ、当分野への投資には大きなポテンシャルがある。

【参考と引用文献】

1. Bao Moi News, “Thach thuc dan so gia (高齢化人口の挑戦)” (2014/10/13)
<http://www.baomoi.com/Thach-thuc-dan-so-gia/82/15026029.epi>
2. VTOWN News, “Education in Vietnm (ベトナムにおける教育)” (2013/8/5)
<http://vtown.vn/en/articles/education-in-vietnam.html>
3. ZING News , “Sach nuoi day con kieu Nhat cua chu tap doan Sony (日本人の子供教育方法の本)” (2013/12/1)
<http://news.zing.vn/Sach-nuoi-day-con-kieu-Nhat-cua-chu-tap-doan-Sony-post364265.html>
4. 「株式会社しちだ」ホームページ
<http://www.shichida.co.jp/kyoiku/about/>